

市長が行く

自然の猛威にさらされて

茂原市でも、8月18日現在コロナ感染者は延べ495人となり、日々感染が拡大しているように感じられます。全国的にも、デルタ株といわれる変異ウイルスの猛威によつて、感染者は増えてきています。このコラムでも書きましてが、新型コロナウイルスとの闘いは、そう簡単に決着が付くものではなさそうです。オリンピックの開催に踏み切つたことや、何度も繰り返し出されたことで、国民は「緊急事態宣言」に対しても、さほど緊急性を感じなくなつてしまつたようにも思われます。私は、短期間でも、超法規的にロックダウンをすべきではないかと思っているのですが。都市間移動を止めることにより、コロナの感染を防ぎ、一方でワクチン接種を進めて行くこと。今はそれしかないよう思います。菅総理は、総理就任の際、自助、共助、公助を掲げ、その後の政策も何となく煮え切らないように思われるのですが、今のような非常時は、自

助だの共助だの言つてゐる場合ではなく、政治家として、強いリーダーシップを發揮しなくてはいけない時だと思います。日本人は、ロックダウンと言えば、諸外国と違い、それに従う国民だと思います。ロックダウンをしたら、経済が立ち行かなくなるという心配もあるでしょうが、そもそも経済至上主義等が、地球温暖化をもたらしました。そしてそれにより、私たちは常に、異常気象を心配しなくてはならなくなりました。今、地球規模の温暖化は世界中で、熱波や急寒冷や豪雨などの気象の異変を起こし、多くの被害を出しています。

人が行つてきたことに對する天罰ともいえるこの異変は、日本においては、大型の台風の襲来や、豪雨をもたらし、茂原市でも一昨年に河川越水を起こしたのは、記憶に新しいところです。この8月に、九州、広島等を襲つた線状降水帯は、今まで8月には見られなかつたような大量の雨で、各地に土砂崩れなどのが、今のように思われるのです。

多くの被害を出しました。この先私たちは、いつ襲つてくるか分からぬ災害に絶えず備えていかなくてはなりません。ウイルスは異常気象も人間がもたらした人災だという説があります。今までのさまざまなものもたらしてきました。今もマラリアなどは、温暖化によって、増えてきていると聞きます。今回の新型コロナウイルスも自由に世界中を行き来で、増殖密化した現代社会だからこそ、パンデミックになつたと言えるでしょう。

人間とウイルスとの闘いは、今に始まつたことではなく、太古の昔からずっと続いたものです。新型コロナウイルスとの闘いは、どんな結末に行き着くのか。いずれにせよ、今を生きていなければならぬ私たちには、現状をどう打破していくかを真剣に考えていかなくてはなりません。



茂原市長 田 中 豊 彦

